

# 笑顔大好き

発行者：常井洋治  
〒319-0205 笠間市押辺1745  
TEL.0299-45-6818  
FAX.0299-45-0818



▲上郷どんと焼きには大勢の人が集まって、今年の無病息災を祈っていました。上郷地域ホテル増やそう会（鈴木裕士会長さん）の皆さんが、3世代交流と地域の自然保全のために開催しました。（H26年1月）

## 燃える郷土愛。全力投球!!

皆様には、常日頃から私の議員活動に対し熱いご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

今年は午年ということで、新年会では馬力・駿馬・天馬などの例え話が飛び交い、明るく大いに飛躍する一年を願う心情があふれていました。是非、そういう一年になって欲しいし、しなければいけないと私も思っています。

さて、私は同じ馬でも、冬の下北半島で吹きすさぶ雪原にじっとたたずむ寒立馬（かんだちめ）を思い起こします。私は、その修行僧のような姿に自分を映し、いつもその写真を携えて、仕事に緊張感を持ち続ける戒めにしてしています。特に、政治に関わる者の一人として、自らの身を常に清廉にして、様々な困難に耐え克服しながら、夢や主張の実現という春の到来を楽しみにしてい

たいと思っています。

私は、昨年的一般質問において、本県医師不足の抜本的解決策としての新設医科大学の誘致や財政再建のための県保有土地の早期処分などを県政の重要課題として問題提起してまいりました。今任期最後の年に、何としましても、これらを解決に向けて前進させたいとの一徹の思いを益々強くしております。皆様のご理解とご助言を賜りながら、寒立馬の心境で歩を進めていきたいと思ひます。

寒さの厳しい日々が続きますので、どうぞご自愛くださいますようお願いいたします。

茨城県議会議員 **常井洋治**



### 筑波海軍航空隊記念館（**農立こころの** 医療センター構内）の入場者が、開館1カ月で6,000人を超えました。

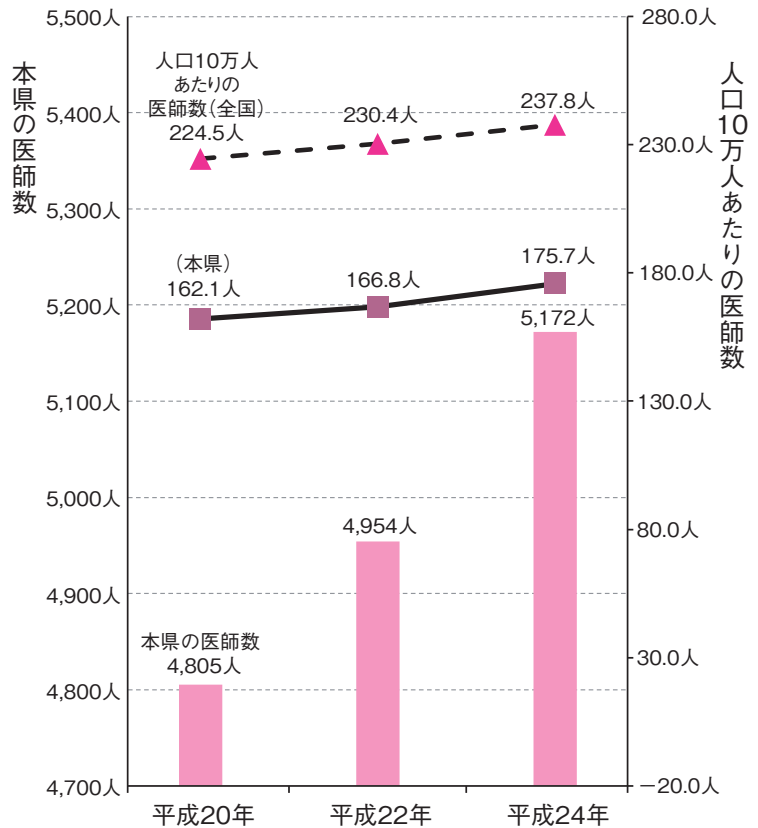
- 平成25年12月20日から、平成26年5月6日まで開館（無休）  
入場料 大人（18歳以上）500円 小学生～高校生 350円 （問い合わせ ☎0296-71-7566）
- 遺族の市原裕子さん、同航空隊友の会事務局長の南秀利さんの講演もあります。
- 同記念館で一部撮影された映画「永遠の0（ゼロ）」が内原イオン、笠間ジャスコポレポレで上映中です。

# 県政講座①

## 茨城県の医師不足ってどういうことなの？

- 最新の調査でも、本県の医師数は全国46位(ビリから2番目)
- 5,172人(平成24年12月末現在)の本県医師数は全国平均に比べ1,800人も少ない。
- 茨城県内でも、県北・鹿行地域の医師不足は極めて深刻
- 小児科医(全国47位)、産婦人科・産科医(同41位)ともに、全国最低レベル

【資料1】本県の医師数及び全国・本県の人口10万人当たりの医師数の推移



資料出所：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」

### 常井洋治のコメント

※ 私は、抜本的解決には、新設医科大学の誘致が必要であると主張しています。当面は、医師修学資金や筑波大学等の本県出身者の地域枠(38人見込み)や医師修学資金を有効に活用しながら、医師確保をしていく(10年後に400人弱増加見込み)ことが大事だと思います。

そのうえで、私が提唱しているように、県立中央病院と県立こども病院を畜産試験場跡地に移転して、県立こころの医療センターを含めた県立3病院を同跡地に集約して有効に活用する「医師養成センター構想」の実現が必要と考えています。

【資料2】都道府県別の人口10万人当たりの医師数

順位	都道府県名	人口10万人当たりの医師数
1位	徳島県	314.6人
2位	東京都	313.7人
3位	京都府	312.2人
}		
25位	兵庫県	237.9人
—	全国	237.8人
26位	北海道	235.4人
}		
44位	福島県	187.8人
45位	千葉県	178.8人
46位	本県	175.7人
47位	埼玉県	154.5人

全国平均との差 62.1人

徳島県との差 138.9人

【資料3】県内の医師数の格差。二次保健医療圏にみた人口10万人当たりの医師数

二次保健医療圏(主な市町村)	人口10万人当たりの医師数
つくば(つくば市、常総市など)	377.6人
水戸(水戸市、笠間市など)	223.0人
土浦(土浦市、石岡市など)	189.0人
取手・竜ヶ崎(取手市、龍ヶ崎市など)	167.0人
日立(日立市、高萩市など)	144.2人
古河・坂東(古河市、坂東市など)	130.0人
筑西・下妻(筑西市、下妻市など)	106.6人
常陸太田・ひたちなか(常陸太田市、ひたちなか市など)	103.3人
鹿行(鹿嶋市、神栖市など)	88.6人

資料出所：厚生労働省「平成24年医師・歯科医師・薬剤師調査」、県統計課「茨城県常住人口調査(平成24年10月1日現在)」

資料出所：厚生労働省「平成24年医師・歯科医師・薬剤師調査」

## 県政講座②

### 条例改正で犬の殺処分頭数7年連続1位の汚名返上はできるの？

#### ●本県の平成23年度殺処分頭数

犬……3,334頭(7年連続全国ワースト1位)

猫……2,792頭

(殺処分は、全て笠間市にある県動物指導センターで行われています。)

平成25年第4回定例会で「茨城県動物の愛護及び管理に関する条例」の一部改正が可決されました。

その概要は、次のとおりです。

#### ①猫の所有者の屋内飼養努力義務

●猫の交通事故や感染症などの危険防止

●ふん尿やいたずらなどでの近隣とのトラブル回避

#### ②災害時への対応努力義務

●一緒に避難生活ができるように健康管理としつけの備え

●名札等の装着、ペット用品の備蓄

#### ③危険な動物(特定動物)が逃げ出した時の県への通報義務



▲県動物指導センター(笠間市)で殺処分直前の犬たち。(H25年7月)

#### ④県の責務

●県民や動物を取り扱う者及び民間団体等との適切な連携に努める

#### ⑤動物の飼い主など取り扱う者の責務

●県が実施する動物の愛護及び管理に関する施策等への協力

#### ⑥捕獲、抑留した犬の生存機会の拡大

●抑留した犬の公表日数を2日間から4日間に延長。所有者への返還の機会を増やし、返還の申し出がない犬の新たな飼い主への譲渡を推進

#### 常井洋治のコメント

※1. 私は、県担当課との勉強会で犬の殺処分頭数ゼロを目指すとの前提で条例改正の検討を働きかけてきました。

しかし、今回の改正ではその基本方針が明確に示されておらず、殺処分頭数を減らすには不十分だと思っています。

※2. いばらき自民党の政務調査会では、犬の多頭飼養(10頭以上)の届出義務を猫にも適用するよう再度改正の意見が出されました。

## とこい洋治の政務調査活動報告

### ●茨城空港送迎デッキのガラスの透明化を

平成26年1月20日に、茨城空港にて地元選出の額賀福志郎代議士と送迎デッキのガラスの現状を調査しました。県議会茨城空港利用促進議員連盟会長の桜井富夫議員、同副会長の田山東湖議員(自民党県連幹事長)、同幹事長の私常井洋治も同行しました。現地で、航空自衛隊百里基地司令大浦弘容空将補と透明化について意見交換を行い、実現について要請をしました。昨年11月の防衛事務次官への要請に続くものです。同空港の来場者は、24年度は120万人を超え、ガラスの透明化で飛行機の離発着が見やすくなるように望む声が多くあります。防衛機密の保全措置を講じた上で、平成26年度を目途に実現化を検討して頂くことになりました。



▲デッキでは、親子連れに出会ったが、子どもは飛行機の離陸を見たくて、くもりガラス下のすき間から夢中でのぞいていた。(H26年1月)

### ●畜産試験場跡地への新設医科大誘致に県選出国会議員の全面的な支援を

送迎デッキの調査後、空港貴賓室にて、桜井、田山両県議とともに額賀福志郎代議士に本県の医師不足の窮状(P2参照)を改めて説明し、意見交換をしました。抜本的な解決策として、本県への医科大学の新設を国が認めるよう働きかけを強く要請しました。

額賀代議士が、本県選出国会議員団のまとめ役となり、超党派でこの難題に対処するようお願いしました。



▲早稲田大学出身の桜井、田山両県議、額賀代議士と同大学の医学部新設に係る情報交換をした。畜産試験場跡地への医科大誘致に額賀代議士のリーダーシップを強く期待したい。(H26年1月)



▲笠間市消防出初式には、750人を超える消防団員、消防署員が参加して壮観だった。(H26年1月)

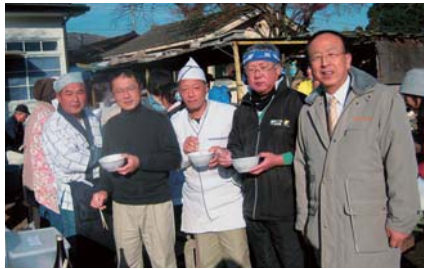


▲出初式の後で、消防団員のカッコ良いパパを応援に来た家族と。(H26年1月)



▲笠間市の新成人は779人。成人式では、きりっとした大人の姿に感動した。(H26年1月)

▶上郷どんと焼きでは、とてもおいしいそばなどがふるまわれた。あっという間に売り切れた。(H26年1月)



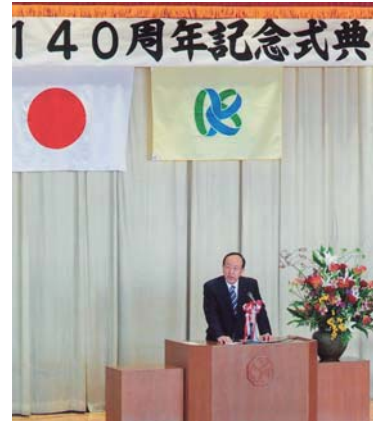
▶「大相撲笠間場所を成功させる会」に参加した皆さんと。本年4月20日に開催される。(H25年12月)



▶友部リトルシテの卒団式にて、原田監督と全国大会出場を果たした自信を糧に高校野球での活躍を期待したい。(H25年12月)



▶水戸市にある回天神社では、水戸藩天狗諸生の乱150周年記念事業を10月に開催する。同神社にはその乱で殉難した穴戸藩士も祀られている。同神社代表の滝田さんと地元の関係者が、抗争の舞台となった土師地区を視察した。(H25年12月)



▲穴戸小の創立140周年記念式典は、約800人余の関係者が出席し盛大に開催された。少子化の中でも伝統校として存続し、在校生には200周年をお祝いして欲しいとエールを送った。(H25年12月)

**防災環境商工委員会(要約) (H25.12.9)**

- 県職員等の消防団への入団を進めよう**
- 中小企業経営者の立場に立った支援体制を**

**常井委員** 消防団は、冬季訓練や毎夜のパトロールなどをやっており、頭が下がる思いだ。消防団は、地域コミュニティーの柱でもある。合併により消防団は統合しても、分団数は維持すべきだ。また、団員数が減少する中で、県職員も教職員も率先して入団し、自らの地域を守るという発信を県全体でやっていくべきだ。

採用時に消防団入団を義務化するという考えがあっても良いのではないか。(常井が提案して県職員に通知した経緯があり、平成25年4月1日現在、県職員153名が消防団員として活躍している。市町村職員は1,372名が入団)

**大高消防安全課長** 本県の消防団員数は23,955人(平成25年4月1日現在)であり、平成21年当時と比べて540人減少している。また、笠間市の場合、市町村合併により3消防団が統合されたが、国では市町村合併時にも消防団員の定数を維持し、定数の見直しは慎重を期するよう通知しており、県は市町村へも働きかけを行っている。

**泉生活環境部長** 消防団員として県職員が活動しやすいように、特別休暇制度を整備している。また、加入を呼びかけているが、義務化については、採用担当部署に伝える。

**常井委員** アベノミクスの波及効果は中小企業には未だ及ばず、倒産は今も増えている。中小企業経営者

は、銀行からお金を借りたとき個人保証をしており、非常に重い鎖を引きずっている。安倍総理が、経営者が破綻した場合の再チャレンジ策を打ち出したことを受けて、全国銀行協会と日本商工会議所が一緒になって、経営者の個人保証の見直しのガイドラインが発表された。一定の要件の下で、経営者の家とある程度の手元資金を残せるようにするというものだが、商工労働部は、どの程度の関心をもって、県の融資に対応していくのか。



▶本県企業の99%以上を占める中小企業が「雇用のダム」として重要だと強調した。(H25年12月)

経営者が再チャレンジできるというコペルニクス的に新たな視点で、県は、事業再生や業態転換をどうしたらいいのか、最終的なぎりぎりの段階での資金繰りや、あるいは清算も含めたアドバイスの相談体制をつくっていく機会にして欲しい。

中小企業の「雇用のダム」としての重要性を前提に、中小企業の経営者の立場に立って寄り添う支援をしていくべきだ。

**横山商工労働部長** 中小企業経営者が、最悪の事態になる前に相談できる体制を検討していく。経営者だった方が、もう一回チャレンジして頑張ろうという案件や、第2創業的なものも応援できる体制も検討していきたい。